



# 協働事業事例集

2020



# 目次

1. はじめに	1
2. 協働（コラボレーション）のかたち	2
3. 協働事業事例集について	3
4. 分野別協働事業事例	
<b>保健・医療・福祉</b>	
No.0101 子どもの学習支援	7
No.0102 通所型介護予防活動支援（①通所型サービスB地域支え合い型事業②地域介護予防活動支援事業（げんきスポット事業））	8
No.0103 訪問型介護予防活動支援（①訪問型サービスB生活支援型事業②訪問型サービスB地域支え合い型事業）	9
<b>社会教育</b>	
No.0201 環境学習出前講座（環境学習事業）	10
No.0202 はんだエコ探検隊（環境学習事業）	11
No.0203 子ども科学体験教室	12
<b>まちづくり</b>	
No.0301 ふるさと半田応援団会議（シティプロモーション推進事業）	13
No.0302 - 1 ふるさと新発見事業（亀崎地区）	14
No.0302 - 2 ふるさと新発見事業（板山地区）	15
No.0302 - 3 ふるさと新発見事業（成岩地区）	16
No.0303 アダプトプログラム推進	17
No.0304 災害ボランティアセンター設置・運営	18
No.0305 地域担当職員	20
No.0306 マイレポはんだ	21
No.0307 まちひろ音楽祭	22
No.0308 まちづくり協働フェスタ&あいちさんフェスタ in 半田	23
No.0309 半田市市民活動助成金	24
No.0310 地域のニーズに合った地区路線バスの導入（地区バス会）	25

No.0311	バス路線の利用促進につながるマップ作製	26
No.0312	ふくし井戸端会議	27
No.0313	柊丘公園を考える会	28
No.0314	(仮称)大高公園を考える会	29
No.0315	(仮称)南廻間池公園を考える会	30
No.0316	任坊山公園を考える会	31
No.0317	運河周辺クリーンアップ活動	32
No.0318	公園管理委託	33
No.0319	半田運河手づくりいかだレース 運河周辺クリーンアップ活動	34
No.0320	亀崎のまちの未来を考える協議会	35

#### 観光振興

No.0401	ごんの秋まつり	36
No.0402	第八回はんだ山車まつり	37
No.0403	南吉さんの蛍まつり(観光課)	38
No.0404	半田赤レンガ建物 特別展	39
No.0405	半田運河 Canal Night	40

#### 学術・文化・スポーツ

No.0601	総合型地域スポーツクラブハウス	41
No.0602	総合型地域スポーツクラブ連絡会議	43
No.0603	南吉さんの蛍まつり(新美南吉記念館)	45

#### 環境保全

No.0701	水辺クリーン・アップ大作戦	46
No.0702	かいどり大作戦	47

#### 災害救援

No.0801	家具の転倒防止器具取付	48
No.0802	防災キャンプ ～親子参加型一泊二日避難所体験講座～	49
No.0803	半田市防災リーダー養成講座 蔵のまち防災アカデミー	50
No.0804	地震津波避難訓練	51

#### 地域安全

No.0901	青色防犯パトロール隊	52
---------	------------	----



## 国際協力

No.1101	国際交流活動	53
---------	--------	----

## 子どもの健全育成

No.1301	保育園遊具塗装	54
No.1302	はんだこそだてフェスタ	55
No.1303	日本福祉大学無料塾	56
No.1304	子ども食堂	57
No.1305	はんだ子育てネットサロン	58
No.1306	彼岸花の球根植え	59
No.1307	コミュニティ・スクール推進	60
No.1308	読み聞かせ会・おたのしみ会	61

## 経済活動

No.1601	はんだふれあい産業まつり	62
---------	--------------	----

## 5. 市民活動助成金事業事例

No.0001	半田運河手作りいかだレース大会	65
No.0002	亀崎思いやり応援隊[K00]による「高齢者生活応援事業」	66
No.0003	亀崎まちおこし事業	67
No.0004	人と猫が共生できる街づくりをめざして	68
No.0005	稗田川をきれいにする	69
No.0006	横川小学校区夏祭り・盆踊り大会事業	70
No.0007	しん池／よし池／かご池 クリーン&かいどり作戦	71
No.0008	高齢者・身体障がい者の日常生活での困り事の支援事業	72
No.0009	公募絵画展「半田運河かいわいを描く」	73
No.0010	お米つくりと泥んこ大会	74
No.0011	科学にチャレンジ、不思議発見	75
No.0012	不登校で悩む親のためのお助け講座	76
No.0013	花園小学校学習支援事業	77
No.0014	はんだ de マルシェ	78
No.0015	亀崎建築ものづくり塾	79



## ➤ 1. はじめに

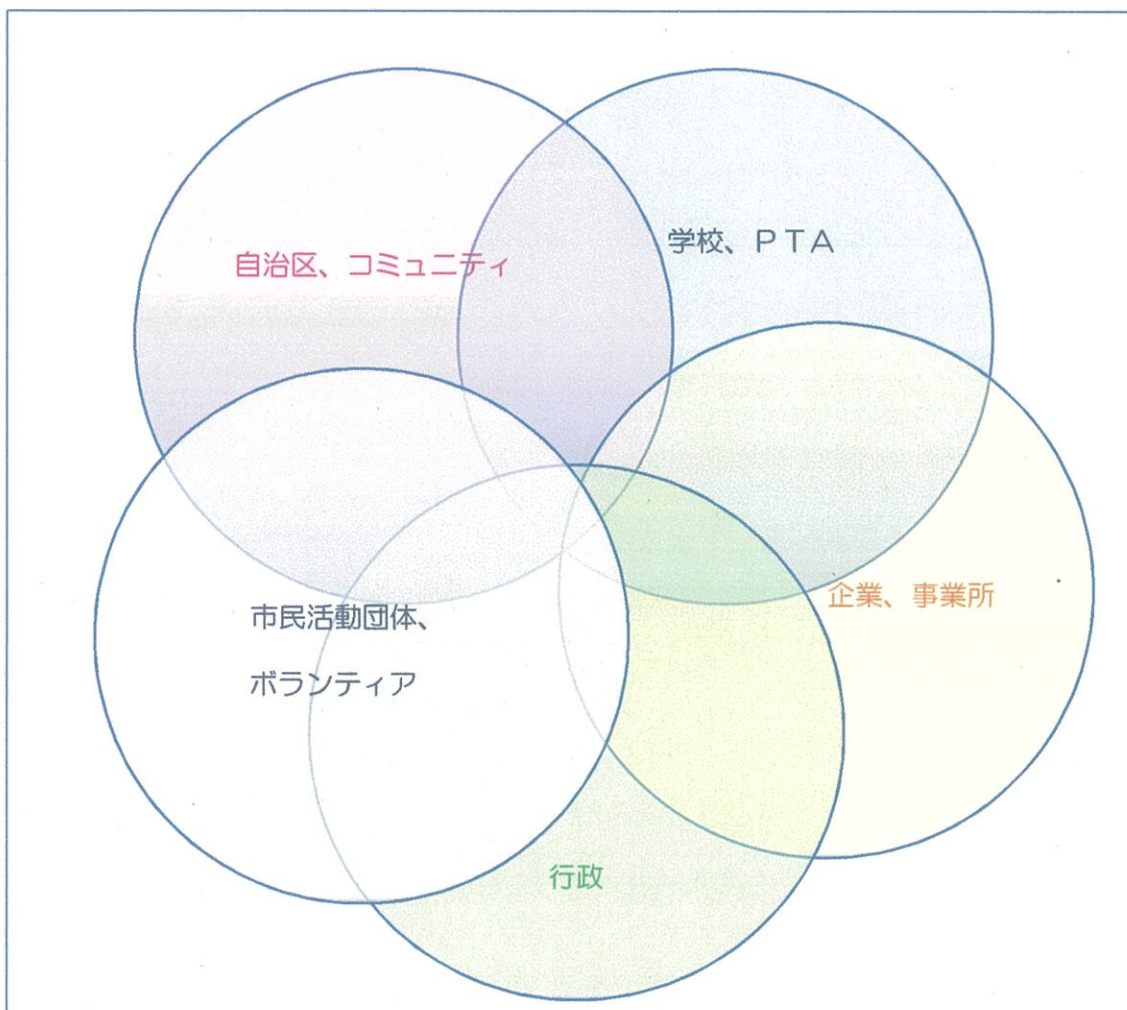
まちづくりにおいて、身近で起こっている様々な課題を、市民、地縁組織、市民活動団体、事業所のみなさんと行政が、まちづくりの担い手としてお互いに力を合わせて解決していく市民協働の取組は、半田市が市民協働推進計画を策定した平成24年3月以降、この10年間で広がりを見せています。一方で、時代の変化とともに、市民ニーズも多種多様にわたってきており、今後とも市民、地縁組織、市民活動団体、事業所、行政の各主体が、お互いの長所や利点を活かし、継続的に協働の取組を進めていくことが、半田市の普遍的な都市像である「健康で明るく豊かなまち」づくりには欠かせないものとなっております。

みんなでいっしょに住みやすいまちを目指し、お互いを尊重しながら、得意なことを持ち寄り、同じ方向を向いて取り組むことで、思わぬ発見やよりよい効果が生まれます。この事例集をご覧いただき、新たな活動をはじめのきっかけになったり、協働事業を組み立てたりする際の参考にしていただけると幸いです。

## ➤ 2. 協働（コラボレーション）のかたち

協働（コラボレーション）のイメージ

～半田市の普遍的な都市像「健康で明るく豊かなまち」づくりのために～



協働の形には、共に資金や物資、知恵、労力を分かち合うものから、それぞれの得意分野で役割分担するもの、連絡体制を整えて情報共有を図っていくものなど多様な形があります。また、目的によって持ち寄る分野が異なったり、事業が継続して実施されていく間に協働の形が変わっていったりすることもあります。より住みよいまちづくりの実現のために、行政、学校、地域組織、市民活動団体、事業者の各主体がさまざまな形でコラボレーションしていくことが期待されています。



### ➤ 3. 協働事業事例集について

この事例集は、これまでに行政が携わった協働事業243と、市民活動団体が半田市市民活動助成金を活用して実施した事業117のうち、次の世代につなげていきたい事業として、合計65事業を掲載しています。これらの事業は、持続可能な仕組みになっている、あるいは発展的な事業になっている、協働の仕方が特徴的であるなど、次の世代へつなげていきたい事例を選びまとめたものです。

まずは「分野別協働事業事例」として、下表のNPOの活動分類に基づく分野別に、協働事業50事例を掲載しています。この事例集では、図1の①、②、③、④、⑥、⑦、⑧、⑨、⑪、⑬の事業について掲載事例があります。

次に、市民活動助成金制度（注1）を活用した「市民活動助成金事業事例」として15事例を掲載しています。

図1 ※青字はこの事例集に掲載のある活動分野です。

NPOの活動分類：①保健・医療・福祉、②社会教育、③まちづくり、④観光振興、⑤農山漁村・中山間地、⑥学術・文化・スポーツ、⑦環境保全、⑧災害救援、⑨地域安全、⑩人権擁護、⑪国際協力、⑫男女共同参画、⑬子どもの健全育成、⑭情報化社会、⑮科学技術、⑯経済活動、⑰職業能力・雇用機会の拡充、⑱消費者保護、⑲NPO援助

（注1） 市民活動助成金制度：市内で活動するNPO・ボランティア団体・自治区などの市民活動団体が行う事業を資金面で支援し、活動の促進を目指す制度です。





# 分野別 協働事業 事例



## 子どもの学習支援

事業分野	保健・医療・福祉	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	福祉部生活援護課・健康子ども部子育て支援課	
	協働相手	NPO法人りんりん NPO法人子どもたちの生きる力をのばすネットワーク	
実施期間	平成27年度から	過去3年間 平均予算額	500千円
協働のゴール	生活困窮世帯の18歳未満の子どもたちへの学習機会(居場所)の提供と社会性等の醸成を図るとともに、相談支援が必要な家庭につながる契機とする。		
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習能力の向上だけでなく、社会とのつながりを増やす機会とする。</li> <li>・子どもたちの様子から個別支援への展開を狙う。</li> </ul>		
◆協働に至る経緯と背景			
前身の安心生活創造推進事業の形態を引き継ぎ、地域のNPO法人に事業実施を担ってもらったこととした。			
◆事業内容			
<p>長期休暇中の学習機会(居場所)を創出し、生活困窮世帯の子どもたちの学習能力の向上を図るとともに、社会や地域との接点を作り、適応力や社交性などを醸成する。(下記は一例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人りんりん(やなべっ子ハウス(岩滑公民館)) 学ぼう!やなべっ子(学習支援)、遊ぼう!やなべっ子(さをり織り体験)など</li> <li>・NPO法人子どもたちの生きる力をのばすネットワーク(寺子屋(アイプラザ半田)) 学習支援、新聞作り、クリスマス会、コマ回しに挑戦!など</li> </ul>			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各関係機関との情報共有(意見交換会の実施)</li> <li>・個別支援の実施</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援(お楽しみ会なども可。)の実施</li> <li>・意見交換会への参加</li> </ul>		
◆協働の成果			
地域に根付いたNPO法人と協働事業を実施したため、子どもたちも参加しやすく、学習機会の創出及び社会性等の醸成とともに、成果があった。また、実施報告には、家庭における相談等が含まれており、生活困窮にも関連する個別支援へのきっかけとなっている。			
◆協働の課題・展望			
学習機会の創出及び社会性等の醸成は図られているが、家庭内における課題が現れたとしても、実際の個別支援につなぐことは容易ではない。なお、平成29年度から、子育て支援課に所管替えし、子どもたちの適応力等を伸ばすことに重点を置き、継続実施している。			



**通所型介護予防活動支援（①通所型サービスB地域支え合い型事業②地域介護予防活動支援事業（げんきスポット事業））**

事業分野	保健・医療・福祉	協働の形態	補助
実施主体	行政	福祉部高齢介護課	
	協働相手	①地域ふれあい会などのボランティア団体（43団体） ②地域ふれあい施設、半田市健康づくり連絡協議会登録団体などのボランティア団体（214団体）	
実施期間	平成29年度から	過去3年間 平均予算額	① 4,411千円 ② 8,056千円
協働のゴール	要介護・要支援状態になっても、生きがい・役割をもって生活できる地域の実現。		
ポイント	介護予防活動の内容・基準の幅広さ		
<b>◆協働に至る経緯と背景</b>			
地域住民主体の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて、利用高齢者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進するための介護保険法に規定する事業である。			
<b>◆事業内容</b>			
「高齢者の介護予防のための通いの場」を運営する地域住民やボランティア団体に対し、補助金を交付する。団体は、高齢者を対象とし、レクリエーション、脳トレ、趣味文化活動、体操、軽運動等を行う。			
<b>◆役割分担</b>			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市報で介護予防を実施する団体を募集</li> <li>・補助金交付（運営費、立ち上げ支援補助、講師謝金、施設利用補助）</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防活動の運営を行う（地域住民（運営スタッフ））</li> <li>・介護予防活動を実施する（地域住民（利用者））</li> </ul>		
<b>◆協働の成果</b>			
住み慣れた地域のなかで、地元の方々が自主運営することにより、地域の高齢者が距離的・精神的に気軽に外出できる環境が整い、介護予防につながっている。			
<b>◆協働の課題・展望</b>			
高齢者の増加も視野に入れ、地域の高齢者が気軽に参加できる環境づくりを引き続き推進していく。			



## 訪問型介護予防活動支援（①訪問型サービスB生活支援型事業②訪問型サービスB地域支え合い型事業）

事業分野	保健・医療・福祉	協働の形態	①委託 ②補助
実施主体	行政	福祉部高齢介護課	
	協働相手	①NPO法人りんりん、NPO法人ベタニアホーム、ヘルパーステーション宝来、NPO法人ひだまり、半田市シルバー人材センター②亀崎思いやり応援隊（KOO）、やなべお助け隊、ならわ思いやり隊、住吉ささえたい、あおやまお助け隊	
実施期間	平成 29 年度から	過去3年間 平均予算額	① 231千円 ② 148千円
協働のゴール	高齢者の介護予防と自立した日常生活の支援		
ポイント	住み慣れた地域の中で、困っている高齢者に対し、自分の特技や軽作業を取り組める気軽さ。		
◆協働に至る経緯と背景			
ボランティア等により提供される住民主体による支援で、多様な高齢者の生活上の困りごとへの支援を柔軟に行うための介護保険法に規定する事業である。			
◆事業内容			
①半田市生活支援従事者研修受講者等が、ごみ出しや買い物等の定期的な生活援助を行う。 ②地域住民やボランティアの人が、電球交換等ちょっとした困り事の定期的でない生活援助を行う。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の周知及び担い手のための研修実施</li> <li>・ 補助金交付</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ごみ出しや買い物など生活援助（事業所）</li> <li>②生活支援、清掃、庭木剪定など（市民（お助け隊））</li> </ul>		
◆協働の成果			
地域の高齢者のために自分の特技や軽作業を行うことで、住み慣れた地域のなかでの社会参加を促し、利用者である地域の高齢者も、気軽に安心して依頼できるため、相互に支え合う仕組みに繋がっている。			
◆協働の課題・展望			
利用高齢者が少ないため、より一層ケアマネジャー等へ周知するなど利用促進が課題である。			




## 環境学習出前講座（環境学習事業）

事業分野	社会教育	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	市民経済部環境課	
	協働相手	知多自然観察会、環境学習ボランティア	
実施期間	平成24年度から	過去3年間 平均予算額	675千円
協働のゴール	身近な水辺の自然環境保全		
ポイント	小学校の授業等で、活用してもらうメニュー 協働相手の専門知識を活用している		
◆協働に至る経緯と背景			
環境課職員だけでは、知識不足であり、知多半島の自然を熟知している知多自然観察会に依頼し、協働に至った。			
◆事業内容			
<p>小学校や地域団体などから要望があった場合、「水辺の生き物教室」を実施している。</p> <p>実際に河川等に入り、生き物を採取し、協働相手に生き物の解説をしてもらう。</p> <p>また、保育者が自ら体験し、その経験を子ども達へ還元してもらえるよう、保育園や幼稚園の教諭に対しても出前講座を実施している。</p>			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講座要望の取りまとめや日程調整</li> <li>・ 消耗品の購入</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門知識を活用した講義</li> <li>・ 講座全体に対するアドバイス</li> </ul>		
◆協働の成果			
互いの得意分野を活用した協働事業で、充実した講座内容となっている。 参加者からは、次年度も申し込みしたいと、好評である。			
◆協働の課題・展望			
新たな広がりを探し、水辺の生き物をきっかけとして、地元愛をはぐくんでもらう講座づくりに努める。			




## はんだエコ探検隊（環境学習事業）

事業分野	社会教育	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	市民経済部環境課	
	協働相手	東邦ガス（株）、森の学舎（愛知県）、（株）エイゼン等	
実施期間	平成26年度から平成30年度まで	過去3年間 平均予算額	—
協働のゴール	環境意識の向上		
ポイント	環境の取組みを学習してもらうメニュー 協働相手の取組事例や工場見学などを実施		
◆協働に至る経緯と背景			
環境配慮対策をしていただいている企業等が多くいる中、市民にも広く知ってもらい、環境に対するインセンティブを模索する中、実施に至った。			
◆事業内容			
夏休み期間を活用し、親子で体験できる環境学習メニューを体験することからスタートし、経過とともに、市内企業に協力依頼を行い実施。環境配慮を実践する企業を訪問し、実際に工場や取組みを見学する。 また、親子だけでなく、大人向けのメニューへと拡大をした。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者とりまとめ</li> <li>・バス等の手配</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> </ul>		
◆協働の成果			
環境に配慮している企業のPRに併せて、市民の環境意識の醸成が図られている。			
◆協働の課題・展望			
申込数の減少及び受入企業の低迷により、現在は休止となっている。令和2年度に本市がゼロカーボンシティを表明したことにより、これまでの環境配慮企業に止まらず、特に地球温暖化防止につながる事業を行っている市内企業を中心とした事業にリニューアルを予定している。			



## 子ども科学体験教室

事業分野	社会教育		協働の形態	事業協力
実施主体	行政	教育部生涯学習課		
	協働相手	JFE スチール(株)知多製造所、中部電力パワーグリッド(株)半田営業所、東邦ガス(株)半田営業所、大八化学工業(株)半田工場、(株)SUBARU 航空宇宙カンパニー、アイシングループ、半田市少年少女発明クラブ、半田商工会議所工業部会、県立半田工科高等学校、半田市小中学校理科部会、半田空の科学館、ミツカングループ		
実施期間	平成 18 年度から	過去 3 年間 平均予算額	250 千円	
協働のゴール	子どもたちに科学のおもしろさやものづくりの楽しさを知ってもらう。また、協力団体やボランティアスタッフとのふれあいの機会を提供する。			
ポイント	普段経験できない科学実験やものづくり体験を行える。 ブース数が多く、自分の興味がある教室に複数参加できる。			
◆協働に至る経緯と背景				
協力団体が子どもたちに科学のおもしろさやものづくりの楽しさを知ってもらうことやキャリア教育の一環として開催することとなった。				
◆事業内容				
子どもたちに興味を持ってもらえるような科学実験やものづくり体験。 (例 スライム作りやお酢を使用した科学実験・キーホルダーやロボットを制作するものづくり教室等)				
◆役割分担				
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市報やホームページ等で広報</li> <li>・会場の提供、消耗品の供給</li> </ul>			
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブース内容の企画、ブースの運営</li> </ul>			
◆協働の成果				
子どもたちは教室に参加したことで科学やものづくりへの探求心が生まれ、学びにつながる。また、協力団体は職種が様々なので、子どもたちは多角的な知識と経験が得られる。				
◆協働の課題・展望				
数量限定のブースは人気があるため、体験人数が限られてしまうので、協力団体と数量を増量できるか検討している。また、同ジャンルが多いため屋内だけでなく、野外でもできる科学実験など新たな実験・体験を検討している。				



## ふるさと半田応援団会議（シティプロモーション推進事業）

事業分野	まちづくり	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	企画部企画課・市民協働課、市民経済部経済課・観光課、子育て支援部子育て支援課、教育部学校教育課	
	協働相手	市民や事業者など約 50 名	
実施期間	平成 28 年度から	過去 3 年間 平均予算額	5, 000 千円
協働のゴール	都市イメージの向上、まちへの愛着醸成のための魅力発掘・発信		
ポイント	半田市の魅力を見つけ、全国に発信していくための「半田ブランドの仕掛け人」としての役割を担う人が集う組織。行政だけでは形にできない市の魅力を発掘・発信し、シティプロモーションの輪をつなげ、広げていく。		
◆協働に至る経緯と背景			
平成 28 年度の「シティプロモーション戦略」策定にあたり、オール半田体制で協働してシティプロモーションを推進していくため、様々な主体の参加による会議が組織された。			
◆事業内容			
シティプロモーション戦略の策定・改訂、推進に係る意見交換、具体的な取組のアイデア検討、関係講演会（研修会）の実施、マスメディア等への魅力発信など。			
◆役割分担			
行政	・ 会議開催及び関係各課への会議参加呼びかけ		
協働相手	・ ふるさと半田応援団会議への参加、個々の生活、活動の中での市の魅力発信、シティプロモーション関連のイベントへの参加		
◆協働の成果			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シティプロモーション戦略の策定及び改訂</li> <li>・ プロモーションアイデアの検討</li> <li>・ アイデアの具体化、事業実施</li> <li>・ インスタグラム・フォト部門審査等の実施</li> <li>・ シビックパワーバトルへの参加</li> <li>・ 参加者の連帯感（つながり）や郷土愛の醸成</li> </ul>			
			
◆協働の課題・展望			
市民・事業者等が、応援団会議の場を通じてつながり、連帯感をもって全体でまちの魅力を発信していくことができるよう、より多くの方が参加しやすい仕組みに見直し、さらに協働による成果や効果を高めていきます。			




## ふるさと新発見事業（亀崎地区）

事業分野	まちづくり	協働の形態	事業共催
実施主体	行政	企画部企画課	
	協働相手	ルート 21、NPO法人亀崎まちおこしの会、半田中央印刷（株）	
実施期間	平成 19 年度から平成 24 年度まで	過去 3 年間 平均予算額	69 千円
協働のゴール	亀崎地区において、地域に埋もれた魅力的資源の発掘と発信を行うことで、地域住民の地元への愛着を醸成する。		
ポイント	亀崎において古くから親しまれている伝統料理「串あさり」のPRやイベント等を実施。		
◆協働に至る経緯と背景			
<p>亀崎では古くから「串あさり」と呼ばれる剥き身のあさを串刺しにした料理が一般家庭で作られていたが、調理に手間がかかり、相応の技術を要することから年々取り組む家庭が減少していた。</p>			
◆事業内容			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「串あさり」を亀崎のお土産として販売する「串あさりお土産プロジェクト」</li> <li>・地元の小・中学生とその保護者に、「串あさり」を作り続けてきた熟練者を実演者に招いて簡単な講習をする「串あさりづくり」</li> </ul>			
◆役割分担			
行政	テレビ局への売り込み、報道機関への情報提供		
協働相手	イベント等の企画、運営		
◆協働の成果			
<p>串あさがメディアに大きく取り上げられ、地域住民の愛着の醸成につながった。また、事業を通じて亀崎に活気が生まれ、NPO 法人亀崎まちおこしの会が設立された。</p> <p>講習会を小・中学生向けに行うことで、その親世代の参加も促し、多世代へ亀崎の伝統を継承することができた。</p>			
◆協働の課題・展望			
NPO 等が持続的に事業推進するため、協働の理念や仕組みの継承支援が重要である。			






## ふるさと新発見事業（板山地区）

事業分野	まちづくり	協働の形態	事業共催
実施主体	行政	企画部企画課	
	協働相手	竹炭研究会、板山ふれあいセンター、半田市観光ガイド協会	
実施期間	平成25年度から平成29年度まで	過去3年間 平均予算額	75千円
協働のゴール	板山地区において、地域に埋もれた魅力的資源の発掘と発信を行うことで、地域住民の地元への愛着を醸成する。		
ポイント	板山の魅力をつめこんだ「いたやまっぷ」の制作 大人から子供まで参加する「わくわく★板山探検隊」の開催		
◆協働に至る経緯と背景			
板山地区の魅力を発信するとともに、板山の方にその魅力を実感してもらうため、板山ふれあいセンター等と協働し、イベントを企画実施した。			
◆事業内容			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・板山ふれあいセンター主催の「わくわく★板山探検隊」の共同実施（H27～29）</li> <li>・「いたやまっぷ」の制作及び板山の未来について話し合う「板山円卓会議」開催（H27）</li> <li>・竹を使ったライトアップ「板山灯り」を開催（H27）</li> </ul>			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看板の制作</li> <li>・円卓会議の開催、「いたやまっぷ」の制作</li> <li>・報道機関への情報提供</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの企画、参加者募集</li> <li>・クイズ内容の検討</li> </ul>		
◆協働の成果			
<p>「わくわく★板山探検隊」は、クイズや看板をたどるコースを設定し、参加者に板山の魅力を発信することができた。また、板山の魅力を楽しいマップで表した「いたやまっぷ」は、住民の意見、視点を多く取り入れ、まちの魅力を参加者が共有するとともに、住民が実感している板山の魅力や想いを「形」として発信することができた。</p>			
◆協働の課題・展望			
ゴールを共有する、より多くの主体（人・団体等）と関わりながら取組を進めていくことが重要である。			




## ふるさと新発見事業（成岩地区）

事業分野	まちづくり		協働の形態	事業協力
実施主体	行政	企画部企画課		
	協働相手	成岩地区ママサークル、半田市観光ガイド協会、成岩地区寺院		
実施期間	平成 30 年度から	過去3年間 平均予算額	244千円	
協働のゴール	成岩地区において、魅力的資源の発掘と発信を行うことで、地域住民の地元への愛着を醸成する。			
ポイント	協働のゴールに向けたステップの一つ目として、地域の魅力を悉皆調査し、その成果を地域の各主体の意見を取り入れて、小冊子に取りまとめた。			
◆協働に至る経緯と背景				
成岩地区の魅力を発信していくうえで、受け手となる新たに住み始めた若い世代や、魅力の一つである寺院など、双方の視点を取り入れながら、情報を取りまとめていく必要があったため、協働して冊子を制作した。				
◆事業内容				
若い世代が普段訪れないエリアを中心に、お寺やカフェなどのスポット、成岩の歴史を気軽に知ることができる「ならわまち歩きマップ」を制作するとともに、マップの補完的資料として、成岩に多く立地する寺院に着目した「てらまちガイドブック」を制作した。また、魅力の実感のため、小冊子をもとにした「まち歩き」を企画した。				
◆役割分担				
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マップやガイドブックの原案の制作</li> <li>・まち歩きコースの検討</li> </ul>			
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マップやガイドブックの内容検討、イベント等情報の提供</li> <li>・まち歩きコースの検討</li> </ul>			
◆協働の成果				
<p>「マップ」は成岩の子育て世代の方の意見をもとに、カフェや飲食店の情報を盛り込むなど、親しみやすい内容とデザインで制作することができた。「ガイドブック」では、コミュニティの原型ともいえる「お寺」での地域住民向けのイベントなど、今後の事業展開にもつながる情報やアイデアを得ることができた。</p>				
				
◆協働の課題・展望				
情報収集、冊子制作、活用の各ステップに応じた協働のスタイルを取り入れていくことが重要であり、各主体の持ち味を活かした取組のコーディネートが重要である。				




## アダプトプログラム推進

事業分野	まちづくり	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	企画部市民協働課	
	協働相手	はんだクリーンボランティア登録団体（市民、市内企業等）	
実施期間	平成12年から	過去3年間 平均予算額	550千円
協働のゴール	市内の公共施設が市民の環境美化活動により綺麗に維持されていること。		
ポイント	管理する場所への愛着と地域の環境をより良くしたいという意識が生まれる。		
<b>◆協働に至る経緯と背景</b>			
市民から地域の公共施設に関し、草刈りや清掃などを日常的にしてほしいとの要望が多く寄せられていたが、財政状況からすべての声に応えることが困難であった。この状況への対応として、当時の市長から、アメリカで実施されていたこの制度が提案され、検討委員会が精査を経て、導入が決定された。			
<b>◆事業内容</b>			
地域住民が利用する公共施設（道路、公園など）でゴミ拾いや草刈りなどを行う清掃活動。			
<b>◆役割分担</b>			
行政	・清掃物品の支給、貸出		
協働相手	・清掃活動（はんだクリーンボランティア登録団体）		
<b>◆協働の成果</b>			
令和2年4月1日現在、7,077人、183団体がこの制度に登録し、地域で環境美化活動を行っている。			
<b>◆協働の課題・展望</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの高齢化が進んでおり、活動を継続できない人が増加傾向にある。</li> <li>・この制度に登録せずに清掃活動している方にボランティア登録をしてもらえるよう制度の周知を図っていく。</li> </ul>			



## 災害ボランティアセンター設置・運営

事業分野	まちづくり		協働の形態	事業協力
実施主体	行政	企画部市民協働課		
	協働相手	半田災害支援ボランティアコーディネーターの会(VGの会)、 半田市社会福祉協議会		
実施期間	平成19年度頃から	過去3年間 平均予算額	—	
協働のゴール	被災者・被災地の一日も早い復興と自立した生活ができるよう支援する 「半田市災害ボランティアセンター」を設置・運営する。			
ポイント	災害時に備え、平常時からボランティア養成講座や専門研修、設置・運営 訓練を実施し、顔の見える協力体制を構築している。			
◆協働に至る経緯と背景				
平成13年1月の半田災害支援ボランティアコーディネーターの会が発足し、ボランティアコーディネーター養成講座等を継続的に実施。平成15年8月に半田市総合防災訓練でボランティア支援本部立ち上げを三者で実施するとともに、平成20年2月にはボランティア支援本部設置・運営マニュアルを作成するなど、災害ボランティアセンター設置・運営に関し三者協働の枠組みが構築された。				
◆事業内容				
災害時に災害ボランティアセンターを設置・運営し、ボランティアや関係機関と協力して、被災者・被災地の一日も早い復興と自立した生活を送ることができるよう支援する。				
◆役割分担				
行政	・災害対策本部との調整、県等との連絡調整、報道機関への対応			
協働相手	・総務、総合受付、情報、ニーズ受付、調査、救護、支援関係団体受け入れ ・ボランティア受付、事前オリエンテーション、マッチング、資機材配布、活動報告			
◆協働の成果				
<p>災害ボランティアセンターの設置候補地の見直し、設置・運営マニュアルの策定や見直し、運営訓練の実施などを行ってきた。また、他県での災害ボランティア活動に参加して、災害ボランティアセンターの状況や被災現場を経験することで、研修会や講座の内容も改善している。</p>				
				

#### ◆協働の課題・展望

発災時は、災害ボランティアセンターだけでなく復興、復旧、自立や避難所運営など、主役は被災者であっても市民となる。災害ボランティア活動の目的は、あくまで被災者の救援と復旧の手伝い及び自立支援であるため、研修会や啓発活動を通じて、当事者意識の醸成を行っていききたい。



## 地域担当職員

事業分野	まちづくり	協働の形態	情報交換・意見交換
実施主体	行政	企画部市民協働課	
	協働相手	自治区	
実施期間	平成 27 年度から	過去 3 年間 平均予算額	—
協働のゴール	地域の実情に合わせた支援を行うことで各地域の課題等が解決され、活発かつ円滑な活動が各地域で行われている状態。		
ポイント	地域担当職員が地域の会議やコミュニティ活動等に参加し、地域と地良な関係を築き、地域における課題等の解決を支援することで地域活動を支援する。		
◆協働に至る経緯と背景			
現場主義の実践として、地域と行政との連携をより一層図るとともに、地域のコミュニティ活動等の活性化を支援するため、理解が得られた地域に地域担当職員を配置する。			
◆事業内容			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の会議に出席し、地域の情報収集と行政情報の伝達を行う</li> <li>・ 地域におけるコミュニティ活動等の支援を行う</li> <li>・ 地域課題の等の解決に向けた支援を行う</li> </ul>			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域におけるコミュニティ活動等の活性化に向けた支援</li> <li>・ 地域の課題等の解決に向けた支援</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域コミュニティ活動の実施</li> <li>・ 地域課題の解決に取り組む</li> </ul>		
◆協働の成果			
地域担当職員の配置により、地域と行政との情報共有が図られ、地域と良好な関係が築けている。また、地域の実情に合わせたコミュニティ活動等の支援や地域の課題等の解決に向けた庁内関係部署との調整などが行われており、地域活動の活性化に大きく寄与できている。			
◆協働の課題・展望			
地域担当職員が地域とのパイプ役としてだけではなく、地域の実情に合わせた適切な支援を行えるよう、地域担当職員のスキルアップを図る必要がある。また、小学校区コミュニティ構築に向けた地域担当職員の配置や役割を検討していく必要がある。			



## マイレポはんだ

事業分野	まちづくり	協働の形態	情報交換・意見交換
実施主体	行政	企画部市民協働課	
	協働相手	市民	
実施期間	平成 26 年度から	過去 3 年間 平均予算額	4 9 4 千円
協働のゴール	地域の課題を行政と市民が情報共有し、双方の協力により解決できている。		
ポイント	スマートフォンを情報共有のツールとして活用することで、市役所の開庁時間に関係なく投稿でき、また、匿名での投稿であるため気軽に利用できる。		
◆協働に至る経緯と背景			
地域における身近な問題を市民と行政が手軽に解決する先進的な取り組みとして導入			
◆事業内容			
道路の陥没など地域の危険箇所や問題を、スマートフォンを使って投稿し、市民と行政が情報を共有しながら解決する			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域課題の把握・状況確認</li> <li>・ 地域課題の解決</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域課題の情報提供</li> <li>・ 地域課題の解決</li> </ul>		
◆協働の成果			
投稿者は、地域の課題等が改善されることで、地域への貢献が実感でき、また、行政は、早期の課題等の把握により速やかな対応が可能となっている。利用者も増加してきており、地域の課題解決を図るツールとして浸透してきている。			
◆協働の課題・展望			
マイレポは、利用者も増加し、地域の課題等を市へ通報するツールとして定着してきたが、今後は課題等を市民と情報を共有し、市民と行政が協力しながら課題等を解決していく、ツールに発展させていく必要がある。			



## まちひろ音楽祭

事業分野	まちづくり	協働の形態	事業共催
実施主体	行政	企画部市民協働課	
	協働相手	市民活動団体・市民、クラシティ、半田赤レンガ建物指定管理者	
実施期間	平成 29 年度から	過去3年間 平均予算額	31千円
協働のゴール	市民活動団体が自主運営し、市民が参加できる音楽祭		
ポイント	市民活動の啓発場所を確保したい市民活動団体と、観光施設等の賑わいづくりをしたい施設管理者側の利害の一致。		
◆協働に至る経緯と背景			
はんだまちづくりひろばに登録する団体からの事業提案により開始			
◆事業内容			
「音楽」というツールを活用し、市民も気軽に参加できる「まちづくり」を目的に音楽祭を開催。関連事業として、ミニコンサートを2ヵ月に1回程度の頻度で開催し音楽祭のPRとともに市民活動の啓発の場としている。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局、音楽祭の運営、備品の貸出し</li> <li>・各種媒体での広報</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動者（演者）の選定、広報（市民活動団体・市民）</li> <li>・開催場所の提供、備品の貸出（クラシティ、半田赤レンガ建物指定管理者）</li> </ul>		
◆協働の成果			
① 音楽祭、ミニコンサートを見聞きした方から、自分も参加したいとの声をいただくことが増え活動の啓発が実になった。			
② 本事業を観覧した自治区役員が演者に対して直接声掛けを行い、地域事業への出演依頼を行うなど、人のつながりや活動の場の広がりがみられた。			
◆協働の課題・展望			
<協働の展望>			
音楽祭やミニコンサートの認知度を向上させ、活動者、活動（演奏）場所を増やすことで、子どもから大人まで、市民活動に触れてもらう機会を増やしたい。			



## まちづくり協働フェスタ & あいちさんフェスタ in 半田

事業分野	まちづくり	協働の形態	事業共催
実施主体	行政	企画部市民協働課	
	協働相手	市民活動団体、学校など 56 団体	
実施期間	平成 27 年度から令和元年度まで	過去 3 年間 平均予算額	660 千円
協働のゴール	多くの方に市民活動を知ってもらい、参加するきっかけとなるフェスタ		
ポイント	日頃の活動を知ってもらう場を確保したい市民活動団体と市内の市民活動・市民協働の取り組みを広く周知したい行政の利害の一致。		
◆協働に至る経緯と背景			
市民活動や協働の取り組みの啓発の場として、参加団体を募り開始			
◆事業内容			
市内で活躍する市民活動団体等の日頃の活動や市内で行われている協働事業を広く来場者に知ってもらうことを目的に「まちづくり協働フェスタ」を開催。参加団体が主体となりブース出展やステージなどの企画・運営を担う実行委員会形式で実施。知多管内の専門高校が主催する「あいちさんフェスタ」と協働開催している。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会事務局、備品の貸出し</li> <li>・各種媒体での広報</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブース出展やステージ等の企画、運営（市民活動団体、学校）</li> </ul>		
◆協働の成果			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者であった人が翌年には団体の一員としてフェスタに参加するなど、活動をはじめのきっかけとなったという声をいただくことも多く、活動の啓発に繋がった。</li> <li>・参加した団体同士や団体と学校で交流が生まれ、市内での新たな事業の展開へ繋がった。</li> </ul>			
			
◆協働の課題・展望			
来場者と団体との間での一時的な交流となってしまうケースもあり、活動をはじめのきっかけとなる仕組みづくりが課題である。			




## 半田市市民活動助成金

事業分野	まちづくり	協働の形態	補助
実施主体	行政	企画部市民協働課	
	協働相手	市民活動団体	
実施期間	平成 22 年度から	過去 3 年間 平均予算額	8, 000 千円
協働のゴール	市内での自発的・自立的な活動の促進		
ポイント	助成金を活用することで活動をはじめ、先進的な事業に取り組むきっかけ作り。		
◆協働に至る経緯と背景			
市民が自発的に地域や社会の問題解決のために取り組む活動である市民活動の拡大と、活動の自立を目的に助成制度を創設した。			
◆事業内容			
市内で活動する NPO・ボランティア団体・自治区などの市民活動団体が行う事業を資金面で支援し、団体の自発的・自立的活動の促進を目指す助成制度。設立間もない団体の支援や設立 1 年以上の団体が地域課題等に取り組む公益的な事業に対し、3 つの部門（はじめの一歩・ステップアップ・コラボレーション）により、助成金を交付する。			
◆役割分担			
行政	※以下について、個別の助成金事業として 63 ページ以下で紹介。		
協働相手			
◆協働の成果			
◆協働の課題・展望			




## 地域のニーズに合った地区路線バスの導入（地区バス会）

事業分野	まちづくり	協働の形態	委託
実施主体	行政	総務部防災交通課	
	協働相手	自治区等有志の地域住民、交通事業者	
実施期間	令和元年度から	過去3年間 平均予算額	委託料200千円
協働のゴール	公共交通空白地域における新しい移動手段の確保		
ポイント	地域住民が主体的に、地域のニーズや特性に合わせた新しい交通手段を考 えることができる。		
<b>◆協働に至る経緯と背景</b>			
平成30年の市内バス路線大幅再編に伴い、交通空白地域となったエリアに新しい交通手段を確保するため、半田市地域公共交通網形成計画に基づき、地域住民を主体とする地区バス会が発足。			
<b>◆事業内容</b>			
地域のニーズや特性に合わせた新しい交通手段の確保を目的に、地域住民が主体的になって組織した地区バスが、交通事業者や半田市との協働のもと、新しい交通手段の確保に向けた協議・手段の実現・利用促進を行います。			
<b>◆役割分担</b>			
行政	・地区路線B導入に必要な予算確保、必要となる手続きや地区バス会運営に係る支援全般		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民アンケートの実施（地域住民）</li> <li>・運行形態、運行計画の作成（地域住民）</li> <li>・普及啓発、利用促進の工夫（地域住民）</li> <li>・交通手段の確保（交通事業者）</li> </ul>		
<b>◆協働の成果</b>			
地域住民等により設立された地区バス会が主体となって、運行内容を検討することから、当該地区にお住まいの方のニーズを最大限反映した運行を実現することができる。			
<b>◆協働の課題・展望</b>			
地区路線Bについては、地域のニーズを最大限反映し運行することができる性質上、一定の継続基準を設けているため、地区バス会メンバーや当該地域のみなさんとともに試行錯誤を重ねながら、多くの方に継続利用していただける、地域に愛される移動手段としたい。			




## バス路線の利用促進につながるマップ作製

事業分野	まちづくり		協働の形態	事業協力
実施主体	行政	総務部防災交通課		
協働相手	① 半田商業高校 ② 半田中学校			
実施期間	① 平成30年度 ② 令和元年度	過去3年間 平均予算額	—	
協働のゴール	地区路線バス「ごんくる」の利用促進			
ポイント	地区路線バスだけでなく、半田市に詳しくなる。 作成したマップ等をたくさんの市民の人に見ていただける。			
◆協働に至る経緯と背景				
平成30年度より運行を開始した「ごんくる」に興味を持った学生から、より多くの人に「ごんくる」に乗ってもらうために何かできないかと提案があり、マップ及びチラシを作成した。				
◆事業内容				
① バス路線沿いに存在する観光名所や商店を紹介したマップを作製。 ② 地区路線バス「ごんくる」の利用促進を図るため、おすすめのバスの乗り方を紹介するチラシを作成し、クラシティ半田に掲示。				
◆役割分担				
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区路線バスについて授業</li> <li>・作成したバスマップの掲示</li> </ul>			
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用促進に係るバスマップの作製</li> </ul>			
◆協働の成果				
<p>若い世代である中学生、高校生がバス路線沿いにあるおすすめのスポットや乗り方を紹介することで、今までバスに乗る機会の少なかった方やバス利用者への新しい利用の仕方として利用促進を図ることができる。また、若い世代の人が地域公共交通について考える機会を設けることができる。</p>				
				
◆協働の課題・展望				
より多くの方に乗っていただける地区路線バスとするため、様々な世代の方と利用促進施策を進めていきたい。				



## ふくし井戸端会議

事業分野	まちづくり	協働の形態	情報交換、意見交換
実施主体	行政	福祉部地域福祉課	
	協働相手	地域住民、自治区、半田市社会福祉協議会、福祉事業所等	
実施期間	平成 22 年度から	過去 3 年間 平均予算額	—
協働のゴール	地域の課題改善		
ポイント	誰もが参加できて、地域課題について協議できる場		
◆協働に至る経緯と背景			
第 1 次地域福祉計画の理念の実現を目指し、平成 22 年度から実施している。			
◆事業内容			
小学校区単位で、高齢・障がい・子育て・防災など、様々な地域課題について地域住民や自治区等で共有し、その解消に向けた具体的な取り組みを考える。			
◆役割分担			
行政	・ふくし井戸端会議に係る経費補助		
協働相手	・ふくし井戸端会議の開催 ・地域課題の解消に向けた取り組みの実践		
◆協働の成果			
<p>地域の課題解決に向けて、協議した結果、「お助け隊」や「地域サロン」が各地区で発足した。「お助け隊」は、困ったときに支え合うしくみの一つであり、地域住民の困りごとを「お助け」する。(例：電球交換、庭木伐採等) また、「地域サロン」は、身近に集える場所で、気軽に参加できる地域の拠点の一つ。これらが発足したことで、近所付き合いが希薄になりがちな今日でも地域の繋がりが出来てきている。</p>			
◆協働の課題・展望			
課題テーマの偏りや参加者の固定化や参加人数の減少が懸念されている。また、コロナ禍における開催方法について検討する必要がある。			

## 柊丘公園を考える会

事業分野	まちづくり	協働の形態	情報交換・意見交換
実施主体	行政	建設部都市計画課	
	協働相手	住吉区、柊山阿弥陀如来講	
実施期間	令和元年度	過去3年間 平均予算額	—
協働のゴール	公園の整備方針の決定		
ポイント	公園を利用する地元区の意見を反映した整備方針の作成。		
◆協働に至る経緯と背景			
利用者の意見を反映した公園整備を行うことを目的に発足した。			
◆事業内容			
地域の代表者を通じて利用者のニーズを把握し、公園の整備方針を検討する。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報交換、意見交換会の開催</li> <li>・ 意見を反映させた公園設計業務</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報交換、意見交換</li> </ul>		
◆協働の成果			
地元からの眺めの良い公園や季節の彩りを感じられる公園にしたいという意見を踏まえ、展望スペースや四季折々の植栽を配置するなど地元で親しみをもってもらえるような整備内容とすることができた。			
◆協働の課題・展望			
公園整備の企画段階から、利用者である地元区が参加し、意見を反映して整備を進めることで、整備後の維持管理の協力体制を導くことができる。			



## (仮称) 大高公園を考える会

事業分野	まちづくり	協働の形態	情報交換・意見交換
実施主体	行政	建設部都市計画課	
	協働相手	上池区	
実施期間	令和元年度	過去3年間 平均予算額	—
協働のゴール	公園の整備方針の決定		
ポイント	公園を利用する地元区の意見を反映した整備方針の作成。		
<b>◆協働に至る経緯と背景</b>			
利用者の意見を反映した公園整備を行うことを目的に発足した。			
<b>◆事業内容</b>			
地域の代表者を通じて利用者のニーズを把握し、公園の整備方針を検討する。			
<b>◆役割分担</b>			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報交換、意見交換会の開催</li> <li>・ 意見を反映させた公園設計業務</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報交換、意見交換</li> </ul>		
<b>◆協働の成果</b>			
<p>大きな広場がほしいという意見や公園内に桜やハナモモを植えてほしいという地元からの意見を反映した整備内容とすることができた。</p> <p>また、公園名は、横川小学校に募集を行い、区で決定してもらうことで、地元に着をもってもらえる公園とすることができた。</p>			
<b>◆協働の課題・展望</b>			
公園整備の企画段階から、利用者である地元区が参加し、意見を反映して整備を進めることで、整備後の維持管理の協力体制を導くことができる。			

## (仮称) 南廻間池公園を考える会


事業分野	まちづくり	協働の形態	情報交換・意見交換
実施主体	行政	建設部都市計画課	
	協働相手	有脇1区	
実施期間	平成29年度から	過去3年間 平均予算額	—
協働のゴール	公園の整備方針の決定		
ポイント	公園を利用する地元区の意見を反映した整備方針の作成。		
◆協働に至る経緯と背景			
利用者の意見を反映した公園整備を行うことを目的に発足した。			
◆事業内容			
地域の代表者を通じて利用者のニーズを把握し、公園の整備方針を検討する。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報交換、意見交換会の開催</li> <li>・ 意見を反映させた公園設計業務</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報交換、意見交換</li> </ul>		
◆協働の成果			
公園を整備するにあたり、公園用地の確保が不可欠であるが、地元区が協議を進め、公園用地を確保することができた。			
◆協働の課題・展望			
公園整備の企画段階から、利用者である地元区が参加し、意見を反映して整備を進めることで、整備後の維持管理の協力体制を導くことができる。			



## 任坊山公園を考える会

事業分野	まちづくり	協働の形態	情報交換・意見交換
実施主体	行政	建設部都市計画課	
	協働相手	成岩4区、西成岩区、協和区等	
実施期間	平成28年度から平成29年度まで	過去3年間 平均予算額	—
協働のゴール	公園の整備方針の決定		
ポイント	公園を利用する地元区の意見を反映した整備方針の作成。		
◆協働に至る経緯と背景			
利用者の意見を反映した公園整備を行うことを目的に発足した。			
◆事業内容			
地域の代表者を通じて利用者のニーズを把握し、公園の整備方針を検討する。			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換、意見交換会の開催</li> <li>・地元意見を反映した既存の自然を活かした公園設計業務</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換、意見交換</li> </ul>		
◆協働の成果			
整備方針を「自然を感じ、健康を育む公園」と定め、水辺や樹木など、既存の自然環境を極力活かし、自然を身近に感じながら散策する園路や親水デッキを配置するなど、ウォーキングなどで、多くの方に利用される公園整備ができた。			
◆協働の課題・展望			
公園整備の企画段階から、利用者である地元区が参加し、意見を反映して整備を進めることで、整備後の維持管理の協力体制を導くことができる。			

## 運河周辺クリーンアップ活動


事業分野	まちづくり	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	建設部都市計画課	
	協働相手	半田運河を守る会	
実施期間	平成31年度から	過去3年間 平均予算額	—
協働のゴール	半田運河周辺の環境保全		
ポイント	地元住民や関連企業と行政が協力して半田運河周辺の清掃・美化活動を行う。		
◆協働に至る経緯と背景			
景観形成重点地区に指定されている半田運河周辺の環境保全に努めるため、行政と協働で活動している。			
◆事業内容			
誰でも手ぶらで気軽に参加できる清掃ボランティア活動として、平成31年度から実施している。			
・半田運河周辺の清掃・美化活動			
◆役割分担			
行政	・清掃作業		
協働相手	・消耗品の供給 ・清掃作業（市民）		
◆協働の成果			
地元住民や関連企業と行政が協力して半田運河周辺の清掃活動を行うことで周辺の環境保全を図ることができた。			
◆協働の課題・展望			
今後も清掃活動を通じて半田運河周辺の環境保全に努めていく。			



## 公園管理委託

事業分野	まちづくり	協働の形態	委託
実施主体	行政	建設部都市計画課	
	協働相手	地元36自治区等	
実施期間	平成28年度から	過去3年間 平均予算額	8,213千円
協働のゴール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元区で公園管理をすることで、公園に愛着を持ってもらうこと。</li> <li>・公園で遊ぶ子供たちを地域で見守ってもらうこと。</li> </ul>		
ポイント	市民と維持管理を協力して行うことで、公園を身近なものに感じてもらう、親しみを持ってもらう。		
◆協働に至る経緯と背景			
地元の公園として、利用を促進すること、愛着を持ってもらうこと、また、公園で遊ぶ子供たちを地域で見守ってもらうため行っている。			
◆事業内容			
公園内の除草・清掃を行う。 トイレのある公園については、トイレ清掃を行う。			
◆役割分担			
行政	・委託契約事務		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園内の除草・清掃を行う。</li> <li>・トイレのある公園についてはトイレ清掃を行う</li> </ul>		
◆協働の成果			
市民と維持管理を協力して行うことで、公園を身近なものに感じてもらえた。 公園施設を大切に利用しようとする意識が生まれた。			
◆協働の課題・展望			
草刈りやトイレ清掃を行っている方の高齢化により作業が難しくなった時に、作業を引き継いでくれる方がいないと、委託の継続が難しくなる。			

## 半田運河手づくりいかだレース 運河周辺クリーンアップ活動

事業分野	まちづくり	協働の形態	事業協力
実施主体	行政	建設部都市計画課	
	協働相手	半田運河の会	
実施期間	平成 22 年度から 平成 30 年度まで	過去 3 年間 平均予算額	—
協働のゴール	半田運河の魅力をもっと高めて、半田の観光の一大拠点に育てあげると同時に、四季を通じた半田市民の憩いの場とすることを目的とする。		
ポイント	地元住民や関連企業と行政が協力して半田運河周辺の更なる発展に努める。		
◆協働に至る経緯と背景			
半田市で推進していた「半田運河再活性化プロジェクト」をバックアップしていきたいという地元住民の思いにより発足した。			
◆事業内容			
気軽に参加できる清掃ボランティアやイベントを通して、半田運河周辺の更なる発展に努める。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・半田運河周辺の清掃・美化活動</li> <li>・手づくりいかだレース大会の運営</li> </ul>			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃作業</li> <li>・市報でのイベントの周知</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃作業（市民）</li> <li>・イベント運営</li> </ul>		
◆協働の成果			
<p>地元住民や関連企業と行政が協力して半田運河周辺の環境保全、景観保全を行うとともに、手づくりいかだレース大会などのイベントを通じて、市民の憩いの場となる半田運河を作り出すことができた。</p>			
◆協働の課題・展望			
後継者不足により、解散した。			



## 亀崎のまちの未来を考える協議会

事業分野	まちづくり	協働の形態	情報交換・意見交換
実施主体	行政	建設部都市計画課	
	協働相手	亀崎のまちの未来を考える協議会	
実施期間	平成31年度から	過去3年間 平均予算額	—
協働のゴール	歴史ある昔からの町並みを保存し、伝統を守りつつ新しい風を受け入れ未来の子供たちの為、災害に強い安心して暮らせるまちづくり。		
ポイント	自分たち（地元）でつくるまちづくり		
◆協働に至る経緯と背景			
景観形成重点地区に指定されている亀崎地区の景観及び伝統ある資源を活かし、地元が中心となって行政と協働でまちづくりを進めていく。			
◆事業内容			
亀崎地区のまちづくりを実施している。 ・まちづくり方針の策定			
◆役割分担			
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観整備の推進</li> <li>・協議会への参画</li> </ul>		
協働相手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民間の連携</li> <li>・協議会の開催</li> </ul>		
◆協働の成果			
自分たちでつくるまちづくりを基本理念とした亀崎地区のまちづくり方針を策定することができた。			
◆協働の課題・展望			
亀崎地区の無電柱化に向け、地元と行政が連携してまちづくりを進めていく。			